



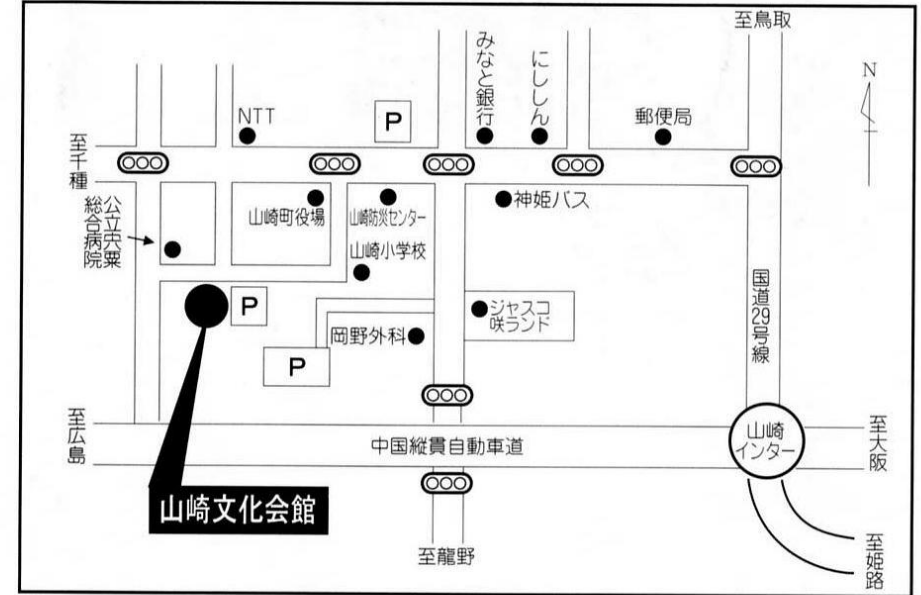
第一回

山崎能

と き 平成15年9月6日(土)
 と ころ サンホールやまさき(山崎文化会館)
 第 一 部 宍粟郡謡曲同好会 午後2時始
 第 二 部 山 崎 能 午後5時30分始
 主 催 山崎能実行委員会
 後 援 山崎町・山崎町文化協会・山崎町教育委員会・神戸新聞社・
 山崎町商工会・龍野ロータリークラブ・山崎ライオンズクラブ・
 宍粟郡医師会有志・宍粟郡歯科医師会有志
 協 賛 宍粟郡謡曲同好会

入場無料

《会場略図》



事務局

山崎町西町(山中医院内)

山崎能実行委員会

TEL (0790) 62-0036

※ 第一回山崎能の開催に当り ※

宍粟郡謡曲同好会は昭和五十五年以來、同好会全員と地元企業有志の皆様のご支援によって十二回の能楽・狂言の公演を主催して参り今では全国同好の方々に広く知られるようになりました。

我が国が誇る古典芸能の中でもとくに能・狂言は完成された芸術として全世界に広く評価されているところで、中学校の教課の中にもとり上げられています。しかしその公演は沢山の専門家の方々の出演を必要とし、とくに人間国宝と呼ばれる最高峰の方々の演能に接することは、大都会でも中々機会がありません。

この度山崎町の共賛支援を得て、第一回山崎能として出発することになりました。この香り高い芸術をより身近なものとして町民の皆様に見賞していただき、又中学生の教養の一環として父兄の方々と共に観ていただくことは将来に必ず益するものがあると考えています。

今回は山崎文化会館において新生山崎能第一回公演として観世流・藤戸を杉浦元三郎師、大蔵流狂言・伯母ヶ酒を茂山千五郎師に、観世流能・殺生石を杉浦豊彦師に演じていただきます。

初秋の一夜を幽玄の最高古典芸術の雰囲気の中で過ごして下さるようお待ちしております。



山崎能実行委員長

山 中 陽 一

第一部 穴栗郡謡曲同好会番組

■素 謡・秋田泉謡会

子方 中村 裕美
トモ 小瀬七五三男
橋辨慶 篠原 宗平

中山 昌子
中村 清子
秋田美恵子
進藤 千秋
中坪 義治
大谷 正之
蒲田 哲子
丸山 央

■連 吟・山崎篠謡会

井 筒

宮本 弘子
坂根文美子
山崎きよ子
上田 隆雄
原 忠雄
進藤ヒデ子
原 みち代

■仕 舞・鶴崎観和会

清 経 山國 重代
野 宮 小寺 寿子
松 虫 鶴崎 智子
融 永井由美子
野 守 田中 洋子

谷口金市
鶴崎 和美
竹添 齊

■連 吟・内山北露会

皇 帝 伊藤 弘之
梶浦 忠志
秋武 春生

内山 正作

■連 吟・山崎集杉会

(午后二時始)

熊 野

岸本 通哉
玉田 敬子 三谷 恭三
新聞 勝代 三渡 圭介
吉川 宏美 藤多 克己
久保 和子 山中 陽一
山根 悠子 塚田 清一
名賀美小夜 加藤 昭彦
安田 浩三

■素 謡・波賀翠謡会

俊 寛

康頼 松本 繁信
成経 中田 勇
岡田 薫
大成みちよ

■独 吟・山崎福王会

砧

葭谷 驍

■連 吟・宇田唱謡会

女 郎 花

西嶋 繁子 森 秀夫
藤井 裕 長田 豊彦
山国 友子 宇田 渡
福井 浩道
宇田 八代

■連 吟・池田掬水会

高 砂

石野 敏郎 山田 雄三 春名 一利
柳田 薫 大部 満男 大畑 清
久宗 丑雄 伊野 操治 安田 武嘉

第二部 第一回 山崎能

午後五時三十分始

能・狂言鑑賞講座

上田 悟

舞台改め

山崎能実行委員長

山中陽一

観世流能 楽

杉浦 元三郎

松本義昭

辻 芳昭

藤

戸

江崎金治郎

吉岡省吾

清水皓祐

赤井啓三

間 佐々木千吉

後見 山田義高

地謡

木内十三比古

久保信一朗 浅野篤義
松野浩行 山田修司
藤谷音弥 笠田修稔
笠田昭雄 塚本和雄

挨拶

拶

山崎能実行委員長

山中陽一

祝辞

辞

兵庫県議会議員

長田 執

祝辞

辞

山崎町長

高嶋 利憲

大蔵流 狂言

伯母ヶ酒

茂山千五郎

佐々木千吉

後見 島田洋海

観世流能 楽

杉浦豊彦

殺生石

是川正彦

辻 雅之上田 悟

白頭

間 茂山正邦

清水皓祐 赤井啓三

後見 笠田昭雄

地謡

鶴崎和美 山田義高
久保信一朗 笠田義稔
松野浩行 上田貴弘
藤谷音弥 塚本和雄

閉会の辞

山崎能実行副委員長

鶴崎和美

終了 午後八時半頃

※会場内での写真撮影・ビデオ録画、テープ録音は、堅くお断わりいたします。また携帯電話は電源をお切りください。

お祝いのことば



山崎町長 高嶋利憲

山崎町には謡曲同行の士が数多くいらつしやり、その方々のご尽力で予てより一流の演者による能、狂言が上演されてきました事につきましては存じ上げておりましたが、私自身、古典芸能、舞踏劇、舞台芸術に関しましてはせいぜい歌舞伎、バリのケチャ、京劇を数回観劇した程度でこの分野はほとんど不案内です。ただ奈良の友人から能舞台の鏡板に描かれた老松は春日大社にある五葉の松がモデルであると聞かされた事をいまだ記憶している事、学生時代、雛子方の用いる竜笛に魅せられ練習に及ぶもついで一音もでなかった事、古典芸能の講座で不可を取った事、観世流の大槻文蔵氏夫人が私の妻の友人であった事であるといった事であるうじてこの世界につながっています。

しかし、日本文化が生み出した現存する世界最古の舞台芸術、しかも主人公がほとんど人間以外の存在(神、霊等)によって演じられる「能」と、現存する人間、しかも地位に関係なく滑稽な人々を演じる「狂言」が、セットで演じられ「幽玄と笑い」を一体化した芸術は混沌とした現代社会を生きたる私達にとって癒し効果が有ると思います。是非多くの町民の方々が謡曲、能、狂言を鑑賞され、第一回山崎能が盛大に開催されます事を心よりお祈り申し上げます、お祝いの言葉とします。

お祝いのことば



兵庫県議会議員 長田 執

暑い夏も過ぎ、森林王国の山から吹く風も秋の気配を漂わす頃となりました。

本日は新しい出発として第一回山崎能が開催されることとなりました。誠におめでたいこととで心からお祝いを申し上げます。

山崎においては、昭和五十五年に郡内の同好の士が集われ、宍粟郡の人達に近くて立派な能楽を鑑賞してもらおうと山崎八幡神社の能舞台で、奉賛新能を始められてからはや二十三年が過ぎ去り既に十二回を数えられました。

山崎八幡神社の能舞台は、元禄十二年にひっそりとした鎮守の森の中に正式の能舞台として建立されて以来、長い歴史を持った由緒ある数少ない文化財の一つです。

八幡神社から文化会館へ舞台が移ることに一抹の郷愁を感じますが、しかし、六百年を越える長い歴史と伝統を誇る古典芸能が山崎において永年の開催経験を踏まえ、更に発展させ舞台を変えて、少しでも多くの人に能を鑑賞して貰い能に対する理解を深めて頂くことが、宍粟の文化を高めることにつながるものと思います。

今宵はたくさんの方々と共に幽玄の世界を楽しませて頂きたいと思っております。

新しい第一歩を踏み出された山崎能が、素晴らしい発展をされますようお祈りいたします。

演目解説

観世流

能楽藤戸

【あらすじ】源平合戦の時、備前国(岡山県)藤戸の合戦で、先陣の功のあった佐々木盛綱は、恩賞によりその辺りの土地を賜わり、新領主として国入りして来ます。そして、まず領民の声を聞くべく、訴訟のある者は申し出るように、従者にふれさせます。すると、一人の老婆がやって来て、罪もない我が子が、盛綱によって殺された恨みを述べます。盛綱は一度は否定しますが、老婆の激しい追及と嘆きに、隠しきれず告白します。去年三月、藤戸の合戦に手柄を立てようと、土地の漁師に浅瀬を聞き出しますが、他の者にも同じように教えられることを恐れて、その男を殺した時の様子を語り、その男を沈めた場所を示します。老婆は悲しみを新たにし、親子の情を述べ、自分も殺してほしいと詰め寄ります。盛綱は前非を悔いて、老婆を慰め、下人に命じて自宅まで送らせます。

〈中入〉盛綱は早速に漁師を弔うべく、法要を行うことや一七日の間殺生禁断の由を指示し、自らも読経します。すると漁師の亡霊が現れ、盛綱は恩賞を賜わり、そのもとなつた自分は殺された理不尽を責め、身の不運を嘆



観世流

能楽殺生石

白頭

【あらすじ】玉藻ノ前伝説、那須野の殺生石の話などを綴り合わせて創作された能です。作者は日吉左阿弥とさ

きます。そして殺された時の有様を再現して見せ、悪龍となつて恨みを晴らそうと思つたが、意外にも回向を受けたので成仏の身となつたと告げます。

大蔵流

狂言 伯母ケ酒

酒を商う伯母が振舞ってくれないので、甥は武悪の面をつけて鬼に化け、伯母をおどして酒を飲む。面が邪魔になり、膝頭に掛けたりして飲むうち、酔いつぶれて寝てしまい、伯母に正体を見あらわされる。

演技・演出

酒を飲む場面は、最初は左手で面の顎を上にあけて飲み、次は面を顔の右横向きにつけ、頭を横にふり、足踏みをしておどした後に飲む。さらに、安座して右手で面を伯母の方に差し出して飲むこともある。最後に、横になつて右膝頭に面を掛け右足を踏んでおどした後に飲む。このように伯母をおどしながら飲むが、酔うにしたがつてしだいに大胆になり、振舞がぞんざいになつたあけく、寝てしまう。

余説

「清水」「抜殻」などでも、武悪の面をつけることによつて人が鬼になる。

れています。

玄翁という高僧が、能力をつれ、奥州から都へ上る途中、那須野の原まで来ると、空飛ぶ鳥とある石の上を通ると落ちるので、不審に思っていると、一人の里女があらわれ、その石は殺生石という恐ろしい石だから近寄らないようにと止めます。

玄翁がその由来を尋ねると、女はむかし鳥羽院に仕えていた玉藻ノ前が、実は化生の者であり、その正体を見顕わられ、この野に逃げたが殺されたため、その亡魂が殺生石になつたのだと詳しく語ります。そして、実は自分がその石魂であるとあかし、石の中へ隠れます。

〈中入〉玄翁が石に向かって仏事をなし、引導を与えるのと、石は二つに割れ、中から野干があらわれます。野干は、天竺(インド)大唐(中国)の世を乱し、日本へ渡つて、日本の国をも滅ぼそうと玉藻ノ前という美女に変じて宮廷に上がつて、帝に近づきます。しかし安倍泰成の祈祷で都を追われ、この野に隠れ住んだが、狩り出され遂に射殺され、その執心が殺生石となつた。しかし今、貴僧の供養を受けたので、以後悪事はいたさないと誓つて消え失せます。

全体にスッキリと洪滞のない構成で、前段の居グセもサツと進み、後段の壮絶な狐狩りの再現は、詞章にあつたキビキビとした所作で、胸のすく思いがします。

八幡神社奉納新能の記録

6	5	4	3	2	1	回
1 平成 9 16	62 9 26	60 10 5	58 10 1	56 10 24	55 昭和 10 4	年月日
菊 慈 童 江崎金治郎	翁 観世元正 三番叟 茂山千五郎 千才 観世清和	弱 法 師 江崎正左衛門	三 井 寺 浦田保利	鉢 木 江崎金治郎	羽 衣 江崎金治郎	演目
呼 声 丸茂山石やすし	二 人 袴 木松村正雄	昆 布 売 伊藤茂	水 掛 簪 茂山千五郎	瓜 盗 人 茂山あきら	柿 山 伏 茂山千五郎	
石 橋 中藤村彌三郎	猩 々 乱 江崎金治郎	葵 上 江崎金治郎	小 鍛 冶 江崎金治郎	紅 葉 狩 江崎康雄	土 蜘蛛 江崎康雄	

12	11	10	9	8	7
13 9 1	11 9 4	9 9 6	7 9 2	5 9 11	3 9 21
巻 絹 和上田英基	高 砂 江崎敬三	安 宅 江崎金治郎	吉 野 天人 坂口信男	鶴 亀 井上嘉久	経 正 大西智久
寝 音 曲 茂山千五郎	萩 大 名 松茂山千五郎	素 袍 落 茂山千五郎	蝸 牛 阿高草一徳	口 真 似 丸石村正雄	瓜 盗 人 網谷正美
俊 寛 江崎金治郎	井 筒 江崎金治郎	岩 船 江崎敬三	野 守 中波多野彌三郎	土 蜘蛛 江崎金治郎	安 達 原 江崎金治郎

能 崎 山 祝

【お知らせ】

山崎能実行委員会を支える宍粟郡謡曲同好会では、謡曲・仕舞の稽古を各社中で行なっております。稽古をご希望の方はご連絡下さい。初心者大歓迎。見学だけでも結構です。

連絡先

秋田泉謡会	大谷 正之	七二〇一五八
池田掬水会	伊野 操二	六二一六〇〇
宇田唱謡会	宇田 渡	六二一〇八二六
内山北露会	内山 正作	七四一〇〇二三
鶴崎観和会	鶴崎 和美	六二一〇一四七
波賀翠謡会	大成みちよ	七五一三五二三
山崎集杉会	塚田 清一	六二一〇〇六一
山崎篠謡会	上田 隆雄	六二一五三七〇
山崎福王会	葭谷 驍	六二一二七四六

(五十音順)

ご協賛者ご芳名

宍粟郡町村会様	庄 清 様
山崎町商工会様	玉田眼科・内科医院様
山崎町文化協会様	金 井 信 治 様
山崎料理飲食業組合様	内 山 正 作 様
大成みちよ様	龍野ロータリークラブ様
宇田 渡 様	山崎ライオンズクラブ様
伊野 操 治 様	江 崎 福 王 会 様
樽 岡 敬 祐 様	姫路新能奉賛会様
中川治衛門様	龍 野 龍 諷 会 様
栗 山 章 様	新 宮 福 王 会 様

※第一回山崎能の開催に当りまして格別の御理解、御協力を賜わり、厚く御礼申し上げます。なお、折角の御厚意にも拘らず、日程等の都合もあり、十分な打合せもできません、広告記事に不備が多々ある事と存じます。また、編集後に戴いた分が掲載洩れになっていることもあります。この点悪しからずお許しのほどお願い申し上げます。